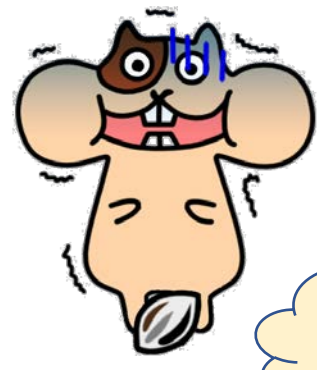
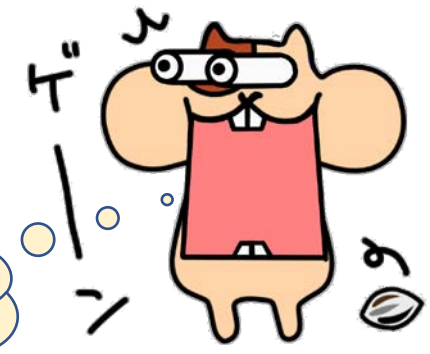
愛媛大学　障がい学生支援ボランティア（CBP）

平成30年7月豪雨災害





身近に潜む
災害の恐怖

写真協力：愛媛大学防災リーダークラブ

今年の７月、西日本各地で大雨が降り、多くの地域で多くの被害がでました。松山市でも４名の方が亡くなり、依然として多くの問題が山積みです。

今回、愛媛大学防災リーダークラブの皆さんの協力のもと“<u>災害時における情報弱者に対する合理的配慮</u>”について、過去の活動と今回の災害の経験を基に考えてみました。

今回の豪雨災害での心情

聴覚障害者として

- ここまで災害が大きくなるとは予想していなかった
- 無線が放送されても聞き取れず状況が分からなかった
- 特別警報が発令された時は初めて不安になった
- 避難時に何を持っていけばいいか分からなかった
- 避難時に手話や筆談ができる方がいてほしい
- 地域の人とのつながりを強めておきたい
- 避難場所を確保したい

CBPから

- 情報を伝えるには？
- 放送や無線がまず聞こえない
- どう関われば いいの？
- どうしてあげたらいいの？
- もっとニーズを教えて欲しい
- 障害があるか聞きにくい

災害を経験して出た問題

①情報

- 情報の取捨選択の難しさ
- 災害情報に手話・字幕がない

つながり

- 周囲の状況を把握しづらい
- 家族との連絡が取りにくい
- 災害に対する関心の無さ
- 他者からの情報の必要性
- 他者の意見を受け入れない姿勢

②コミュニティ

- コミュニティに入れない
- 地域の活動自体を知らない
- コミュニケーション不足
- 情報弱者の存在の周知
- 健常者の目線で作成された避難計画

③事前準備

- 被災したときの備蓄品がない
- 災害に対する心の準備不足

これからの課題・今後に向けた活動

【聴覚障害者として】
- 防災についての知識をつける
- 地域とのつながりを深める
- 持ち出し袋等日頃からの備えをしておく
- 信頼できる情報源を持っておく

【ＣＢＰとして】
- 様々な情報保障手段を身につける
- 合理的配慮に基づいた情報整理、情報提供
- 手話や筆談などの情報提供手段の啓発活動
- 防災イベントへの参加補助、内容企画

問い合わせ先　【愛媛大学　障がい学生支援ボランティア（CBP）】
E-mail: cbp.scv@gmail.com　Facebook:　https://goo.gl/jAx8Hq